

日時	2019年10月16日(水) 10:00~11:30	
参加者 (敬称略)	小山市	委員10名中9名参加 総務部行政経営課
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・【資料1】第6次行政改革大綱実施計画の変更について ・【資料2】第7次小山市行政改革大綱(案) ・【資料3】第6次行政改革大綱実施計画の進捗状況について ・【資料4】第6次行政改革大綱実施計画 効果額一覧 ・【資料5】第6次行政改革大綱実施計画 進捗度一覧 ・【資料6】第6次行政改革大綱実施計画 進捗状況調書 ・【資料7】小山市民間委託等推進計画及び同実施計画について ・【資料8】民間委託等推進プロジェクトにおける指摘事項及び変更点 ・【資料9】民間委託等検討業務に係る実施計画 進捗状況調書 	

■決定事項

No.	決定事項
※1	次回、10月31日を予定に再度、開催する。

■要対応事項

No.	要対応事項	期限
※1	第7次小山市行政改革大綱の修正(グラフ、語句の説明(注書))	適宜
※2	議事録の作成	適宜

<議事要約>

1. 挨拶、委員の紹介
⇒各委員からの挨拶
2. 事務局の挨拶
3. 事業者の挨拶
4. 委員長より開催の挨拶
5. 第6次行政改革実施計画の変更について
 - (1) 事務局より説明(資料1参照)
 - ・グリーンツーリズムの推進
 - ・人権問題に関する市民意識調査の実施
 - ・マイナンバー制度を活用した業務の効率化
 - ・適切な会計年度任用職員制度への対応(新たな取組)
 - ・働き方改革への取組(新たな取組)

- ・支出名慰霊塔の電子審査課（新たな取組）
- ・国保税納税通知書へのユニバーサルデザインの導入（新たな取組）

（２）各委員からの質疑・議論

○委員

No.29 グリーンツーリズムの推進については延島地区の小学校ではだめなのか。（下生井小の）廃校も統合も決まっていなければ、廃校が決まっているところで実施することができないのか。

⇒統廃合は決まっているがいつからかが決まってない。統廃合が決まったらグリーンツーリズムの推進に活用する。（委員長）

⇒検討事項とする。（事務局）

○委員

No.65「小山市公共施設等総合管理計画」の推進は総延べ床面積を15%減少させることが目標であったが実際には公共にはやらなければならないことが多く施設自体は増加している。

行政改革についても同様であり、人件費を減少させているが、職員にノウハウが低下しているというデメリットがある。今後、何かあった場合については対応できるのか心配である。

施設の総量を減らすということはこれまでやってこなかった。人口減少に伴い税収は減ってくるのでどこかで施設は減らさなくてはならない。なかなか民間とは違って公共サービスの観点から施設を減らすことは難しいが、各年度の維持管理費もかかっており、どこまで赤字を認めるか考慮の上で検討を行っていかなくてはならない。

職員を減らして人件費の減少を行っているが、ノウハウの蓄積という観点からこれ以上は減らすには危機感を感じる。

⇒公共施設等総合管理計画についてはできるものを記載して計画していくべきではないか。（委員長）

●委員長

「No.20 マイナンバー制度を活用した業務の効率化」でマイナンバーの普及率はどれくらいか。

⇒概ね20%弱くらい（事務局）

●委員長

「(7) その他の取組み」の会計年度任用職員とはそもそもどんな内容か？

⇒市のアルバイト職員や臨時職員など安い賃金、社会保障を受けられない方々を正職員と同様の給与水準にあげようというもの。（事務局）

○委員

（資料1 新たに実施計画に組込む取組項目）「(7) その他の取組み」の働き方改革の取組などはそもそも行政改革とは呼べないのではないか。

○委員

「(7) その他の取組み」の支出命令等の電子審査化については、新聞で出ていたので実施済

なのではないか？

⇒すでに当期に実施済みであるが、実施計画に記載がなかったためここで議論とすることとした。(事務局)

6. 第7次小山市行政改革大綱(案)について

(1) 事務局より説明(資料2参照)

(2) 各委員からの質疑・議論

○委員

RPAなど専門用語について注書きで解説をいれる。(該当ページ下部に)グラフは小さく、重複したデータがあり、同じデータを載せるのは意味がないため省く。

○委員

略語についてはできるだけ横文字ではなく日本語で記載を行う。できなければ説明を入れるべきではないか。3年前についても同じことをコメントさせて頂いている。

○委員

第7次小山市行政改革大綱(案)については第6次の評価の後に行う必要があるのではないかと。第6次行政改革の評価し内容を検討してから第7次小山市行政改革大綱を記載する必要ではないか。

第6次小山市行政改革大綱実施計画における「橋梁長寿命化に向けた計画的な維持管理」については進捗度がDで今年度も前年度のままDである。どうして積み残しのままなのか検討して、第7次小山市行政改革大綱へ反映していく必要があるのではないかと。こういった委員の意見が反映されていないのではないかと。

⇒これから第6次の取組み案については検証し、最終年度となる当期の進捗踏まえながら第7次においても反映をさせていく。委員会においても内容を提出のうえ検討を頂いた上で進めて行きたい。(事務局)

○委員

少子高齢化の議論では特に高齢化が問題となっているが、ボランティアの活用をうまくやるべきではないか。多くの財を高齢者が使っている。子供は減っていくが、高齢者は増加することは明白であり、高齢者のボランティア活用などの高齢者への配慮を意識した記載をすべきではないか。

⇒行政改革大綱で記載するものではなく、もっと上位の総合計画などで記載をするものであり、ここでの議論ではないと考えられる。(委員)

○委員

P16で資産老朽化比率について小山市は他市と比較して老朽化が進行していることが記載されている。だから庁舎を建てなさいということだと思うが、特にインフラ資産については老朽化していることが示されている。道路など台風災害があったが、どんな対策を行っているのか、グラフでの出し方ではなく、個別に老朽化しているところを記載すべきではないか。

○委員

P27について「計画的な点検、診断により施設の老朽化を把握し、不具合が生じる前に保守・修繕等を行うことで・・・」と記載されているが、現状ではどうかということを第6次（実施計画）で見ると目視点検のみとなっている。これでいいのか。

小山市へ引っ越す若い世代が結構、多く入ってきている現実がある。江戸川区のハザードマップを見ていると小山市は比較的安全な都市ということも踏まえて小山市へ引っ越していることも想定されるので安全については特に留意して欲しい。

○議員

行政改革については数字では見えないところが多い、そのため削減については職員が自己満足になりすぎないような大綱にしていく必要がある。

○委員長

時間となったので、次回は31日午前中でもう一度調整してほしい。

以上